



## 経済産業省の令和2年度戦略的基盤技術高度化支援事業 (通称「サポイン事業」)に2件採択されました

(公財)長野県テクノ財団は、経済産業省の令和2年度戦略的基盤技術高度化・連携支援事業～戦略的基盤技術高度化支援事業～(通称「サポイン事業」)に事業管理機関<sup>※</sup>として提案し、このたび2件が採択されました。これにより、当財団が事業管理機関として実施するサポイン事業は、継続案件を含め9件となりました。

**1 内容** (公財)長野県テクノ財団では、県内企業の産学官連携研究開発を支援するため、裾野産業の技術向上につながる研究開発や販路開拓を支援する経済産業省の補助事業「戦略的基盤技術高度化支援事業(以下、サポイン事業という)」の活用を進めております。今回、令和2年度のサポイン事業へ事業管理機関として応募した結果、以下の案件が採択となりました。

今後、各研究開発プロジェクトの共同体構成員(企業、大学、公設試など)と共に研究開発成果の創出に向けて、最大3年間事業を推進してまいります。

### 2 採択案件一覧(詳細は別紙参照)

- ・超精密膜厚制御による放射光施設用フリーフォーム型X線ミラーの開発
- ・アモルファス金属ガラス溶射を用いた磁歪式トルクセンサの開発

また、サポインの詳細については、下記URLを参照ください。

<https://www.kanto.meti.go.jp/seisaku/sapoin/index.html>

※戦略的基盤技術高度化支援事業における事業管理機関とは、研究開発計画の運営管理、共同体構成員相互の調整を行うとともに、研究開発成果の普及等を主体的に行う者です。

公益財団法人長野県テクノ財団  
(事務局長) 倉島 浩 (担当) 久保 政憲  
電話 026-226-8101  
FAX 026-226-8838  
E-mail techno@tech.or.jp

(別紙)

研究開発計画名	研究概要	参画機関	長野県テクノ財団 担当セクション
超精密膜厚制御による放射光施設用フリーフォーム型X線ミラーの開発	放射光施設の高性能光源を活かしたX線顕微観察には集光のための高精度ミラーが欠かせない。近年、光源性能の大幅向上を背景に、SPring-8などの世界の放射光施設から新しいタイプのフリーフォーム型X線ミラーの開発が強く要請されている。本開発では精密膜厚制御技術に基づくミラー製造プロセスを独自に開発することにより、精度・製造リードタイムの課題を解決し、作製が極めて困難な次世代型X線ミラーを世界に先駆けて実用化する。	夏目光学株式会社（飯田市） 東京大学	伊那テクノバレー 地域センター
アモルファス金属ガラス溶射を用いた磁歪式トルクセンサの開発	自動車業界では今後自動運転化が進む中、ステアリングシステムは電動パワーステアリング（EPS）からステアバイワイヤ（SBW）システムへ移行する流れがある。一般的にトーションバー式トルクセンサを用いるEPSでは、自動運転化に伴う操舵に対する車両の応答性、また路面からの反力伝達などに追従出来ず、高応答に追従出来る磁歪式トルクセンサをSBWに用いる事で、システムの操作性、安全性の向上に期待できる。	多摩川精機株式会社（飯田市） 信州大学	伊那テクノバレー 地域センター